

別紙3 令和8年度 自己評価書 作成日: 令和8年9月15日 国分寺市立第五小学校 校長名 齋藤 晃

教育目標:	○元気な子 ○やりとげる子 ◎考える子 ○思いやりのある子
めざす学校像:	保護者や地域から信頼される学校
めざす児童像:	子どもたちが主体的に学び活動する学校
めざす教師像:	教職員が協働して教育活動を創造していく学校

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	努力指標 (中間)	努力指標 (最終)	成果指標 (中間)	成果指標 (最終)	今後の課題	学校関係者評価記入欄
豊かに表現する力を育てる教育	考え、豊かに表現し、実践できる力の育成	情報を活用した主体的・対話的な学びの実現	○課題解決にGIGA端末や、既習事項、新聞、図書資料等情報を活用し、主体的・対話的な学びを実現する授業改善を図る。 ○「国分寺学」や各教科で協働的な学びや、校内・地域へ発信等、豊かに表現する学習活動の充実を図る。	3		4		基礎的な学習環境は整っていることから、今後は児童が自ら考え、友達と対話しながら学びを深める授業づくりを一層進める。また、GIGA端末を活用した学習の様子や成果を保護者にも分かりやすく発信していく。	・GIGA端末の操作については、習熟が進んだと思われるが、デメリットや学びへの寄与についての検証も考えていく必要がある。 ・AI等も活用し、児童の学びを深めていってほしい。 ・読書離れが進んでいるからこそ、図書館の活用に大いに期待したい。
		基礎学力の確実な定着 体力の向上	○算数習熟度別指導や東京ベーシックドリルの活用を通して、個別最適な学び方や既習事項等基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。 ○体力調査の結果をもとに、体育指導の改善や外遊びの工夫を推進し、運動の楽しさを味わわせる。	3		4		基礎学力の定着や体力向上の取組を継続するとともに、読書活動や学校図書館の活用をさらに充実させ、学習習慣や思考力を育む取組を推進していく必要がある。児童一人一人の学習状況に応じた支援も引き続き充実させる。	・外遊びの少ない子供たちの実態を考えると、体力向上の取組はありがたい。 ・ベーシックドリルや体力調査に関係する事務処理を学校が行うのは大変ではないかと思う。 ・読書活動を通して基礎学力の向上を目指してほしい。
保護者・地域と連携した学習や活動の開発	保護者・地域と連携し、国分寺市や地域を共に大切にする子どもの育成	地域・保護者の人材、教材を生かした、郷土に根差す学習活動の開発	○コミュニティ・スクール協議会等の機能を生かし「国分寺学」を中心に、地域と連携を深める教育活動を継続・発展する。 ○「国分寺学」の推進や中学生ボランティア等、一中学区で小・中連携の取組を行う。	1		4		地域資源を活用した学習は成果を上げているものの、学年による実施状況の差をなくす持続的な体制構築が必要である。さらなる地域連携の強化に向けて、学習成果の積極的な発信を通じて、保護者や地域からの理解と協力を得ることが重要である。	・地域資源活用 の前提として、国分寺学についても、理念だけではなく、さらに具体的な取組方針を明確にする必要がある。 ・小学生の活躍の場が、地域にできるよう、地域と共に考えていきたい。 ・学年による差があるのは、当たり前だと捉えるのが健全だと思う。
		学校の教育活動について保護者・地域に理解を得る。	○保護者・地域からの情報や学校の課題を、コミュニティ・スクール協議会で検討し、内容を保護者・地域へ発信する。 ○学校からの発信方法について、紙、メール、ブログのよさを組み合わせ、分かりやすく積極的な情報発信を行う。	2		4		学校からの情報発信は概ね評価されている一方で、コミュニティ・スクールの取組や学校教育への理解をさらに深める工夫が必要である。紙・メール・ブログ等を効果的に活用し、分かりやすくタイムリーな情報発信を進める。	・学校運営協議会からの情報発信も考えていけるとよい。 ・地域への連絡方法とし、メール等がもっと活用できるようになっていくとよい。 ・学校で多学年のよい取組を具体的に子供に説明できると、家に帰って親に伝えてくれるのではないかな。ロコミの伝達力を利用する。
豊かな心を育てる教育の充実	人権尊重の精神を育成し、豊かな心を育てる教育の充実	子どもが安心して楽しく学校に通うことができる。子どもが自分や友達、一人一人を大切にできる。	○特別支援や、スタートカリキュラムの理念を生かし、一人一人の多様性を認めた指導を行う。 ○いじめの未然防止、早期発見・解決に努める。 ○学校教育全体を通して道徳教育に取り組み、授業のキーワードを校内に掲示する。	4		4		安心して学校生活を送れていることについて評価は高い。いじめの未然防止や児童理解を継続するとともに、防犯・安全面への取組についても保護者や地域と連携しながら充実を図る。	・謙遜をせずに5をつけてもよいのではないかな。先生方の努力により、安全な学校運営ができていていると思う。 ・良好な状況にあっても、学校、保護者、地域が連携し普段の努力を続けていく必要がある。 ・子供を取り巻く大人も多様性を認め合うことで、子供たちは自分や友達を大切にできると思う。
		自尊感情、自己肯定感の向上 学校や学級への帰属意識の高揚	○保護者・地域と連携し、学校・家庭・地域での適切な言葉遣いや挨拶のできる環境を整える。 ○縦割り班活動等の充実を図り、活動を通して異学年と交流を深め、他を思いやる気持ちを育む。	4		4		自己肯定感や所属感を育む取組を継続する。挨拶や言葉遣いなど基本的な生活習慣について、学校・家庭・地域が共通の意識をもって育てていく。	・縦割り班の活動はよいと感じる。 ・人間として大事な思いやりやコミュニケーションとして大事な挨拶や言葉遣いを継続して指導していってほしい。 ・地域から見て、問題点は感じないが、共通意識をもつことは大切だと思う。
働きがいを感じ元	教育職員の業務や教育の質の向上のための時間的余裕を創出する。 ワーク・ライフ・バランスの充実や働きがい等を感じられる職場環境の改善を図る。	1箇所時間外在校等時間が45時間以下の割合を減らす。 ストレスチェックにおける高ストレス者の割合を減少させる。	○高学年教科担任制の授業の実施。 ○校務分掌に基づくとともに、担任の持ち時数に配慮した講師配置の実現。 ○専科副担任の仕事内容の明確化。 ○校務分掌組織の整理と明示、職層に応じた役割分担の実現。 ○教職員も働き方の改善策を考えるとともに、働き方改革の施策の有効性について評価する。	2		4		教育活動の質を維持・向上させるため、業務の効率化や役割分担の見直しを進める。会議運営や校務の改善を図り、教職員が児童と向き合う時間をより確保できるようにする。	・教職員の働き方改善には、家庭や地域の理解も重要だと考える。 ・業務の効率化について、大胆な発想の転換が求められているのではないかな。 ・先生方が心身共に元気でゆとりをもって子供たちに接していただけるよう地域も共に考えていきたい。 ・五小では、環境改善を積極的に考えられていると思う。